

# 見て・触って・感じて

今回は古宮公民館にて、古宮獅子舞の会代表 武田靖弘さん、  
会計 横山博さん、副会計 筒井健太郎さんにお話しを伺いました。



▲左から横山博さん、武田靖弘さん、筒井健太郎さん

活動を休止されていた  
ようでしたが、再開された  
経緯は。

平成21年の秋まつりを最後に、つり子や舞手(まいて)不足などにより、古宮獅子保存会は活動を休止しました。その後、神事だけでもしたいということで、古宮連合自治会からの要請があり、平成22年の秋まつりから10名程度の有志によって活動を再開し、平成24年に現在の古宮獅子舞の会を立ち上げました。まだ秋まつりでつり子付きの舞をすべて披露することはできませんが、神事は必ず行うようになっています。



▲獅子頭と油単(ゆたん)

この度、空くじの社会  
貢献広報事業のヨミユニ  
ティ助成を受け、獅子頭  
などを新しくされました  
が、詳細は。

獅子頭2体と油単(ゆたん)2枚、太鼓1張と締太鼓(しめだいこ)1張、神楽鈴(かぐらすず)2個と篠笛(しのぶえ)20本、パチ5セットを購入しました。

獅子頭は以前と比べて  
違うところは。

購入した獅子頭は和紙  
で作られているので、少  
し軽量化されています。

若いメンバーが半数を  
占めています。要因は。

以前に土曜いきいき探検隊という教育委員会の事業があり、地域の伝統芸能に触れるということで、毎月1回土曜日に小学校に赴き獅子舞を子どもたちに教えていたのですが、その子供たちが高校生や大学生になり、活動に参加してくれていません。

メンバーや練習日数は。

現在28人で活動しており、そのうち未成年者は10人で20〜22歳が4人です。練習は9月20日過ぎから1カ月間、週4回行っています。

獅子舞の披露の場は。

古宮の秋まつりをメインにしており、大中遺跡まつりにも出演しています。その他、今年は播磨幼稚園にも訪問しました。

お困り事は。

人集めに苦労しています。つり子については小学2年生が行い、「汐汲み」は小学3年生の女子にしてみたいですが、舞手(まいて)も含めもっと多くの子どもや若者に参

舞にはいろんな型がある  
ようですが。

舞には10の型がありますが、今年は「幣の舞(へいのまい)」「三番舞(さんばんそう)」「新剣(しんけんぎ)」「汐汲み(しおくみ)」「牡丹(ぼたん)」「奴(ぬ)を演舞しました。全部の型を披露することが目標です。そのために若い人たちにたくさん参加してもらえるように古宮でしっかりと地固めに

アピールポイントは。

やはり若い力。つり子や舞手(まいて)を担ってくれており、躍動感ある舞になっています。一度経験してもらえると虜になること間違いなしです。

『見て・触って・感じて』



▲演目「狐」を体験

## 380年続く古宮の獅子舞

獅子舞は、寛永11(1634)年、古宮講の伊勢太神楽として榎木大明神(現「古宮住吉神社」東隣)に奉奏(お囃子で舞う)したのが始まりだといわれています。それ以来、地域の人々によって受け継がれてきた獅子舞は、昭和57年3月に無形民俗文化財として町の指定を受け、現在まで伝えられています。

広報はりま 2011年10月号  
播磨町郷土資料館宮柳館長補佐(当時)  
「播磨ヒストリア」より



伝えたいこと

若者や子どもたちが一生懸命取り組んでくれてるのが嬉しい。やって良かったと思ってもらせるように、自分たちが準備も含めてしっかりとサポートをしたいです。そして10年後20年後に、今の若者や子供たちがさらに次の世代につなげて、受け継いでいてほしいです。



▲練習での一コマ(古宮公民館)



▲播磨幼稚園を訪問